令和４年度

視察研修報告書綴

研修日　令和５年１月 23 日（月）
視察研修地　高知県越知町
研修日　令和５年１月 24 日（火）
視察研修地　香川県三豊市

基山町議会

広報広聴常任委員会

令和４年度　広報広聴常任委員会　視察研修報告

１　研修日程、研修先及び件名

（１）　１月23日　　高知県越知町
　　議会広報紙について

（２）　１月24日　　香川県三豊市
　　議会の広報・広聴活動について

２　参加者　広報広聴常任委員会６名　議会事務局１名　　計７名

委 員 長	栗野　久明
副委員長	松石　信男
委　　員	末次　　明
委　　員	大久保由美子
委　　員	天本　　勉
委　　員	中村　絵理
議会事務局	濵口　結花

３　研修報告

（１）　１月23日　　高知県越知町
　　議会広報紙について

【研修目的】

越知町は全国町村議会議長会広報コンクールにおいて何度も様々な部門で表彰を受けている。コンクールでは、「見やすさ」「編集力」等が評価されており、基山町の議会だよりでも一番注力している。具体的に、編集までの作成工程（担当割）・記事の内容・構成はどのような視点で行っているのか、特に注視している点について先進地から学ぶことを研修の目的とした。

【越知町の概要】

越知町は県庁所在地の高知市から西方に32kmの距離に位置し、東西15.2km、南北16.6km、総面積111.95平方kmで、細長い長方形をしている。

明治11年に越知村として誕生し、明治33年に町政を敷いた以降２度にわたり近接の村との合併、編入を経て新しい越知町として今日に至っている。

人口は令和４年３月末現在5,209人である。産業別人口は第３次産業が1,556人（63.4％）占めていて、佐賀県の東松浦郡玄海町と産業別人口規模が近い。

役場近くには、全国１級河川水質ランキングにおいて過去11年間で９度日本

一に選ばれた奇跡の清流仁淀川が流れ、神秘的な「仁淀ブルー」と出会える人気スポットがある。

【研修内容】

・議会広報委員会の年間の取組について。

　編集は、委員５人と事務局長および議長が当たり、それぞれの担当分野の説明を受けた。

・議会広報誌の作成工程（担当割）、記事の内容・構成について。

　委員の担当割は特に定めず話し合いでその時にできる委員が担当し、編集作業は全員で行う。記事の内容・構成は２回の委員会で決め、ページ数については、事務局と記事の内容によりその都度協議して決めている。

　また、過去において視察調査で得た地方創生の戦略について議会の提言を協議し特集記事を組んだこと。そのほか追跡記事、災害対策・若者との屋外会議（座談会）・中学生議会などの特集記事の説明を受けた。

・表紙の撮影方法とテーマの選定について。

　表紙の写真は、読んでもらうためにインパクトを読者に与えられるよう、子どもを中心に動きのあるもの選び、特定の委員が出向いて撮影し委員会で協議の上採用している。

越知町での研修

【研修対応者名】

議会広報常任委員会	委 員 長	箭野　久美
	副委員長	森下　安志
	委 員（副議長）	小田　範博
	事務局長	中内　利幸
	（議　　長	高橋　丈一）

（２）　１月24日　　香川県三豊市

議会の広報・広聴活動について

【研修目的】

三豊市は７町が合併して基山町の約10倍の広い面積を持つ地方自治体である。そのような中、議会活動をどのように市民に知らせているのか、またコロナ禍においての活動で広報・広聴活動をどう実践しているのか、特に広聴活動について先進地から学ぶことを研修の目的とした。

【三豊市の概要】

三豊市は香川県西部に位置し北は瀬戸内海に面しており、南は讃岐山脈で徳島県三好市と県境を接して、総面積222.73平方kmで南北に長い形状で縦断している。平成18年１月１日に三豊郡の旧６町と旧財田町が合併し、三豊市として今日に至っている。

人口は令和５年１月１日現在59,631人である。農業が最大の産業で、古くから製塩業が盛んであったが、近代以降は臨海部の港湾・工業開発に取り組み、詫間港を中心とした臨海工業ゾーンを創出している。

【研修内容】

・議会広報委員会について。

委員会は特別委員会として３期目までの議員で構成され、議会の広報（広報紙・報道・インターネット）に関する事項・議会だより・議会のホームページ等の管理を行っている。広聴については議会運営委員会の公聴会議が担当しているとの説明を受けた。

・議会だよりについて。

議会だよりについては、発行時期・規格・組型・部数・予算配布先等の説明、ページレイアウト及び委員会開催スケジュールと記事担当や提出期限等の具体的な説明を受けた。

また、発行までの手順の中に代表質問・一般質問の部分は各会派で行うようになっている。

表紙はテーマに沿った写真を担当者が撮影し、裏表紙には表紙に関する取材記事を記載している。そして、今回からあえて市執行部と同じテーマに挑戦し議会の視点で切り取ることにしていた。

記事では、代表質問・一般質問・委員会審査報告の割り振り等の説明を受けた。

・議会報告会の内容、テーマ設定、報告会場の選定等について。

広聴に関しては議会運営委員会の公聴会議が担当し、公聴会議は議会報

告会開催要項に基づき設置される。報告会の円滑な運営のため、副議長並びに各常任委員会、議会運営委員会、議会広報委員会の副議長により構成され、議会報告会は少なくとも年１回以上開催することを議会基本条例に掲げ、意見交換の場を多様に設けるとしていると説明を受けた。

議会報告会の開催スケジュール、進行、これまでの報告会の変遷などの説明の中で、コロナ禍による中止、その後映像による報告会や３会場オンライン（Zoom）会議や小規模対話集会による開催等の内容の説明を受けた。

三豊市での研修

【研修対応者名】

議会広聴委員会	委 員 長	田中　達也
	副委員長	近藤　武
	委　　員	市川　洋介
	委　　員	湯口　新
	委　　員	込山　文吉（議会運営委員会）
	事務局長	松岡　大輔
	事務局次長	櫛田ちえみ
	書　　記	坂田　茂香

４　各委員の所感

（１）　１月23日　　高知県越知町

議会広報紙について

（報告者　桒野　久明）

過去に何度も広報コンクールで表彰を受けている越知町の議会広報紙は、表紙の子どもの姿に目が引かれる。表紙について視察先で伺ったところ、撮影技術の高い委員の方が、委員会の思いを受け撮影しているとのことだった。「なるべく、一眼レフカメラで撮影を」と一言助言を頂いた。

また、紙面のページ数は特に定めておらず委員会で記事の内容に応じて決め、多い時は30ページを超えることもあるとお聞きした。基山町は６・12月定例会で16ページ、３・９月定例会では18ページと定めている。ページ数が増え委員の負担が多くなるにもかかわらず、読者に伝えることの思いから優先していると感じ取れる。この二点については、この研修で広報担当者として特に心に残るものだった。

オールカラー印刷については、読者の目に優しい色使いであり、ともすれば視覚的に雑然となりがちであるが落ち着いた紙面であった。文章の書かれた紙面は、２色刷りと思えるぐらいの配色であったが、写真はカラーの方が情報の説得力が増すとの理由でオールカラーとしているとの説明を受けた。また、記事の中に空白が多いことについて伺ったところ、これも読者目線で落ち着いて読める工夫であると説明された。

全て予算や情報提供者側の一方的な目線ではなく、読者の側に寄り添った議会広報誌を目指していることが伺えた。基山町議会広報誌も歴史があり、見直しを重ねて進化してきた経緯もあるため全てまねることはできないが、読者目線で手に取って見ていただくことを念頭に、今後の編集の一助としたい。

（報告者　松石　信男）

町村議会広報全国コンクールで全国第３位の優秀賞を受けたことがある越知町議会だより、人口5,200人余りで議員が10人。議会だよりが町民に分かりやすく、読みやすい。議会だよりの全面カラー化、写真の多用で文章は少なく工夫がされている。さすが優秀賞を受けた議会広報と感心した。基山町議会だよりの編集発行に当たり大いに参考にすべきと思う。特に基山町議会だよりとして、今後紙面のページ数の増や全面カラー化、子どもや若い世代の写真の多用、文章をできるだけ少なくするなど工夫する課題ではないか

（報告者　末次　明）

越知町は中山間地域に位置し面積は基山町の５倍、人口は約5,209人である。議会だよりは全ページカラーで統一、表紙を重要視され「できるだけ子どもを中心に動きのあるものを使用する」ことを最重要ポイントとされている。

基山町も、子どもの動きのある写真を使いたいが個人情報問題や身内写真の多用などの課題が多く、越知町では手間をかけてこの問題をクリアされている。また、町外からの移住者や若者世代地域でがんばっている人、団体、グループなどを広報委員が取材に出かけ編集されている。

基山町も議会活動の一環として広報広聴委員が手間暇をかけることが町民の皆さんに読んでいただける議会だよりにつながることを確信した。

また、町民の声を聴くことに注力され、町内の中心地開催だけでなく、キャンプ場などの屋外に出向くことやリモートでの開催など柔軟に対応されている。

（報告者　大久保　由美子）

基山町議会だよりは、前年度の議会だよりを参考に基本的な構成や継続的な維持を通して作成しているので、様々な点で越知町議会だより作成の取組の違いを感じる。特集においても、基山町は各委員の持ち回りで表紙と２ページ枠で作成して、すでに８年経過している。越知町議会だよりの特集記事の基本は、住民と議会が交わり接点があるものを委員全員で取り組まれている。

またフルカラーではあるが大変見やすい色使いと写真の大きさなど見る人への興味や効果を引き出している。活字も参考にしたい。様々な気づきを研修できたので、ぜひ今後の本町議会だより作成の参考としたい。

（報告者　天本　勉）

編集体制は、常任委員会５名と事務局と共同で編集している。議長も出席され、１回の発行当り委員会を３～５回行っている。

編集方針は、議会の独自性、主体性を維持し、「議事の公開の原則」にのっとり議会活動全般を公正で客観的に捉え、町民に分かりやすく読みやすい内容で、的確かつ簡潔にまとめることを基本としている。

また、読む人の側に立った編集姿勢を心掛け、一般質問の追跡記事や地域の身近な話題、住民参加欄や議員の声なども企画し、より多くの町民に親しんでもらえる紙面づくりに努めているとの説明を受けた。

越知町の議会だよりについて、表紙は子ども中心で動きがあり、写真やグラフを用いて項目ごとに小見出しを設け、文章は簡潔で視覚的に興味を注ぐ紙面となっている。また、紙面に多くの余白があり、手に取って読んでみたくなるような工夫がされており、編集委員の皆さんの熱意が伝わった。

基山町もさらに工夫し、町民の皆さんの取組、照会なども含め視覚的にも分かりやすい紙面づくりに努めていく必要性を感じた。

（報告者　中村　絵理）

越知町の議会だより「おち町」には町民が多く登場する。これは、町民に議会だよりを手にしてもらうための越知町議会の工夫であり、表紙の写真は縦向きが基本、被写体に的を絞って撮影されている。紙面にも写真が多い。また、最新号では全面カラー編集を採用している。

基山町では各議員が持ち回りで特集記事を書いているが、越知町議会では委

員会で話し合いの上、若者との座談会や商工会との意見交換会開催を特集記事として掲載、新年度予算の時期には７頁を費やし、予算の説明を多くの写真入りで掲載している。また、連載記事（住民登場シリーズ記事）を編集、今回は女性の活躍を紹介している。

紙面の文章は短く簡潔にとの努力が感じられ、その時々のトピックスを掲載、カラー紙面センスも良い。越知町議会の熱意が感じられる。

「伝える」ではなく「伝わる」議会だよりにこだわる姿勢は大いに見習うべきものがある。

基山町も議会と語ろう会の開催等、公聴にも力を注いでいるが、今までの固定観念にとらわれることなく、さらに公聴部分の強化を図り、まだ掘り起こせていない町民の声の掲載等に対する工夫の必要性を感じた研修であった。

（２）　１月24日　　香川県三豊市

議会の広報・広聴活動について

（報告者　桒野　久明）

議会だよりの紙面は16ページで納められ基山町と変わりない。違う点は、オールカラー刷りと原稿を全員協議会で各代表（一般質問、委員会審査報告、定例会リード）に依頼し、記事の校正確認も行っている。基山町でもこの委員会で最初にオールカラー刷りについて検討したが、全国のコンクールの表彰結果は、むしろ２色刷りの議会誌の方が上位を占めていたこともあり、予算の関係も含め現行の２色刷りで決定している。また、原稿依頼先について、市は委員会の数が多いことや会派等で組織が大きいことにより各組織に依頼している。広報委員会で全ての記事を作成することは無理があり、この方法にしたと伺える。表紙に市民が登場しその取材記事も掲載することで、市民との距離感を無くし一体感が得られる点は是非今後の参考としたい。

特集記事は、あえて執行部と同じテーマとしたことを今年の成人式の記事で紹介された。その意図は議会の視線で取材することにあった。基山町は広報広聴委員の１名が担当し記事を書いているが、委員会全員で特集内容を協議し、議会として記事を作りアピールしている点は共感できる。

議会報告会の年間スケジュールは、開催日を周知して５月の中旬以降に開催する計画としていた。対話集会についても同時期から７月の初旬ころまでに開催することとし、その後、意見を各委員会がとりまとめ広聴委員会に原稿提出し、議会だよりを市民に配布している。また執行部への要請書は、９月の定例会で取りまとめて11月中旬に回答をもらい、翌年３月の当初予算に反映するとのことだった。基山町の場合、広報広聴委員会が開催からとりまとめまで行っ

ているが、ともすれば他委員会への越権行為とならないよう報告義務もあり、スケジュール管理も含め組織の見直しが必要であると感じた。

（報告者　松石　信男）

人口６万人余りの三豊市議会。議会だよりが全面カラー化で、表紙は子どもや女性、若者の写真が主で生き生きとしていると感じた。記事内容などは基山町議会だよりと大体同じ。議会報告会は10月に開催され、出された意見を来年度予算に反映するために、市長に要請書として提出している。令和４年度からの報告会をユーチューブで開催、地元の高校の生徒との対話集会などで若い人の参加が広がっている。特に若い人が議会活動に関心を持ってもらうように工夫をされているなど、今後基山町議会だよりの編集・発行にあたり参考とすべきではないか。

（報告者　末次　明）

三豊市は香川県北西部に在り、基山町の10倍の面積に60,000人の人口を有している。議会だよりを編集する議会広報委員会は副議長のもと、特別委員会として位置づけられている。発行までの手順や特集を組むことは基山町と同様であるが全体の色合いや表紙のすばらしさに議会広報としての誇りが見て取れる。

住民の声を聴く議会報告会や対話集会は議会運営委員会のもとに広聴会議として位置づけされている。広い市内の多数の場所で開催される議会報告会は、市民の声を「市政に対する要請書」としてまとめられ市長に提出し、執行部からの回答を求められている。基山町議会も議会報告会での疑問や提案に安易（即答）に回答をすることなく議会内で議論し、執行部に書面で回答を求めるべきではないかと反省している。また、議員自らの手による映像（オンライン）での議会報告会の開催やユーチューブでの動画配信など、最先端の機器を議員が使いこなされている。基山町議会にも議員に幅広い人材と多種多様な特技や発想を持った人が集まってくれることを願っている。

（報告者　大久保　由美子）

三豊市議会の議会広報委員会と広聴会議は、別々に構成され役割も仕分けされている。

それに比べ本町議会の広報広聴常任委員会は活動が結構多くハードな委員会であるが、前向きに取り組まれていると思う。三豊市議会はコロナ禍前の議会報告会は活発に開催されて、26会場に参加者も400人以上である。しかしコロナ禍で令和４年の議会報告会や対話型等は中止して、オンライン（Zoom）で

１日だけ開催されていた。
　また、視察研修で初めてQRコードから資料を読み取りタブレットで説明を受けたのだが、デジタル化も進んでいると感じた。やはり、本町議会もデジタル化やオンラインによるZoomなどは今後検討する必要がある。また、議会報告会や対話集会等の開催も４月～８月に行い、次年度予算に反映することを目的にタイトなスケジュールで開催されているが、大変重要で参考になり一度議論したい。

（報告者　天本　勉）
　表紙は人にフォーカスし、最終紙面でその人物の取組や思いが紹介されていた。文章が多く情報量は豊富であるが、基山町の議会だよりの方が読みやすさを感じた。
　広聴活動では、平成25年度から市民との対話集会を行っており、近年はオンラインによるZoom会議を実施している。
　オンラインZoom会議は、事前に参加者の募集と質問事項を聴取し、10人の議員で対応しており、各会場で出された意見については委員会に振り分け、取り上げた意見については市長に提出している。
　また、今後の展望として、デジタルの強みと会場型を組み合わせた対話集会を行うなど、気軽に若年層が参加できるような仕組みづくりを行っていきたいとの説明を受けた。
　基山町においても「議会と語ろう会」を実施しているが、町民が気軽に参加できるような仕組みづくりをさらに研究・検討していく必要性を感じた。

（報告者　中村　絵理）
　三豊市の議会だよりの表紙にも市民が登場する。これは、越知町と同じく、市民にいかに手に取ってもらえるかとの意図によるものであった。
　ここで興味深かったのは、Zoomによる議会報告会、市民、各種団体、高校生等との対話集会への取組である。Zoomによる議会報告会は、コロナ禍であったこと、そして、議員の中にデジタルに精通した者がいたからこそ開催出来た報告会であったが、確実に若い年代層の掘り起こしに成功しているとの報告があった。
　また、市民、各種団体、高校生等との対話集会の開催は、今までの固定された参加者以外からの意見も拾うべきであるとして企画しているとのこと。
　今後の展望について質問をしたところ、今後はデジタルの強みと会場型を併せ持った組合せ型の報告会を行うことが、高齢者層と若者層に対する公聴強化

と考えているとのことであった。

越知町や三豊市に共通しているのは、新しい参加者の開拓である。

基山町でのZoom報告会開催はすぐにとはいかないが、今後は取り入れていくべき課題の一つであり、議員が出張しての対話集会やインタビュー等の取組は、本町でも活用できるのではないだろうか。

基山町「議会だより」編集に携わる者として、大変有意義な視察研修であった。

5　まとめ

今回の視察で、越知町の議会だよりによる広報の在り方、広範囲な三豊市の広聴の実践について先進地で学ぶことができました。

特に越知町は基山から遠く、天候も危ぶまれるなか決行し無事に帰ることはできましたが、研修の期間中、議長・議会事務局・同僚議員の方、並びに先方の研修先には大変ご心配をおかけしましたことに心からお詫びと、研修の目的が達成できましたことについて感謝申し上げます。

議会だよりによる広報は、一人でも多くの方が手に取って読んでもらえること。広聴については、三豊市はこのコロナ禍で開催場所や方法を工夫された面を伺いました。いかに多くの方の声をどのように議会がお聞きし、町政に反映できるか。その方法や手段を基山町に取り入れられるかが今後の課題であり、各委員がそれぞれ感じたことこそ研修の成果だったのではと感じています。

委員一同、この貴重な体験がこれからの広報広聴を充実し、町民の方に寄与できるものと信じ今後も活動して参ります。

広報広聴常任委員会委員長　　栗野　久明